

ひがしんを
知っていただく
ガイドブック
2022

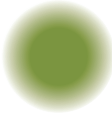


東京東信用金庫



目次

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1	SDGs ひがしんは地域の皆さまとともに未来へ・・・・・・	8
ひがしんの理念・・・・・・・・・・・・・・・・	2	・ 地域の経済発展	
ひがしんのスローガン・・・・・・・・・・・・	2	・ 地域社会・まちづくりへの貢献	
令和3年度における事業の概況・・・・・・・・	3	・ 人材育成	
これからのひがしん・・・・・・・・・・・・	3	・ 地域環境への取り組み	
特別対談・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4	ひがしんの「4つの組織」・・・・・・・・・・	16
「TOKYO イースト産学官金連携に期待すること」			
～人と人、相対することの重要性～			



ごあいさつ

地域貢献と課題解決活動

平素より東京東信用金庫をお引き立て賜り厚く御礼申し上げます。

東京東信用金庫をより一層ご理解いただくために、「ひがしんを知っていただくガイドブック 2022」を作成いたしました。当金庫の経営理念や持続可能な社会の実現に向けた活動などについてとりまとめましたので、ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

令和 3 年度は、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響や顕在化する地政学的リスクにより、地域を取り巻く環境は厳しさを増し、中小・小規模事業者の方々に深刻な影響を与えております。

当金庫において令和 4 年度は、平成 26 年度から取り組んでおります、ひがしん中長期経営計画「金融創生力の発揮と未来への挑戦!」の最終年度を迎えます。将来に向けたステップアップを図る 9 か年計画を基に、取り巻く環境が急激に変化するなかにおいても、着実に実績を積み上げてまいりました。総仕上げの年度として、これまで培ってきた経験やスキルを活かし、地域の持続的発展のために全力を尽くす所存です。

信用金庫の原点である“Face to Face”の精神を忘れずに、資金繰り支援、本業支援および事業承継、経営相談、事業再生などの課題解決活動を実践するために、お客さまの状況を正確に把握し、課題の共有を図り、一緒に悩み、解決策を提案してまいります。また、さらに効果の高い解決策を見出すために、中小企業応援センターのアドバイザーや外部専門機関、自治体などに“つなぐ力”を職員が磨くことで、お客さまに最適なソリューションを生み出してまいります。

当金庫は、経営理念に「縁 あたたく一人へ・街へ」をテーマに、「信望」・「躍動」・「共存」の 3 本の柱を掲げ、お客さま第一の姿勢で、独創的な発想を活発にして、地域社会との共存共栄を目指しております。経営理念に基づき行動することで、経済価値と同時に社会価値も創出し、世界共通の目標であるSDGsの達成にも寄与してまいります。地域のお役に立つこと、すなわち地域に貢献することで、地域になくてはならない存在となれるよう邁進してまいります。

今後とも皆さまの変わらぬご支援とご愛顧を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和 4 年 10 月

理事長 中田清史

ひがしんの理念

経営理念

縁

信望 お客さま第一の姿勢で、誠実・健全な経営を
躍動 独創的な発想を活発にして、力強い競争力を
共存 役職員が協力して、地域社会との共存共栄を

あたたかく——人へ・街へ



庫章(シンボルマーク)の紹介

庫章の楕円は、地域社会と東京東信用金庫を表す二つの円が重なり一体化して、ふくよかに広がる様を、日本の伝統的な「和」の形で表しています。右寄りの白い円は「東」の方位で、万物をはぐくむ陽光が地平から昇る姿を示し、成長や繁栄を表現しています。本庫章は、指でOKするサインに似ているため「グッドマーク」と呼ばれます。

ひがしんのスローガン

「夢を夢で終わらせない信用金庫」

ヒューマニティあふれる
地域を創る信用金庫

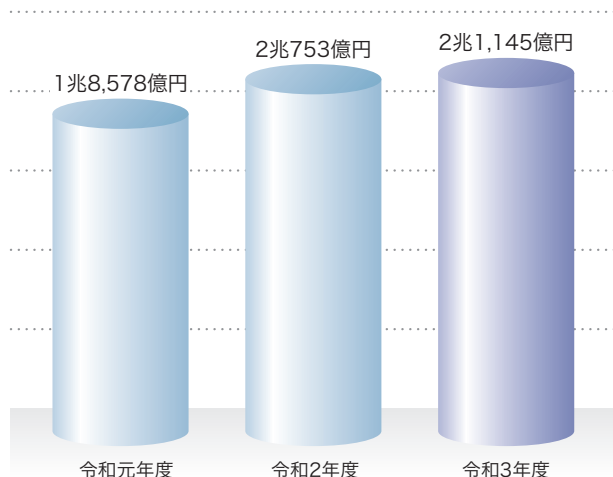
地域金融機関としての
使命を果たす信用金庫

地域とのつながりを
大切にしながら
明日をかなえる信用金庫

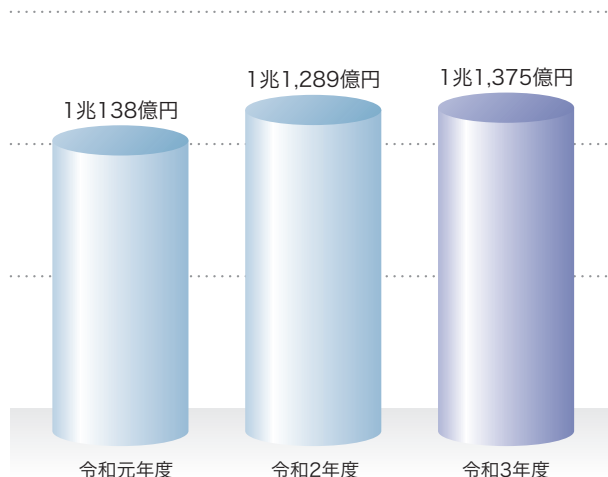


令和 3 年度における事業の概況

預金・積金残高推移



貸出金残高の推移



これからのひがしん

事業の展望

理事長方針

『地域貢献と課題解決活動』

《 令和 4 年度 経営方針・主要課題 》

- (1) 収益力の強化
- (2) 事業の選択と集中
- (3) 人材の育成と活用
- (4) 内部管理態勢の強化

《 令和 4 年度 事業計画 主要計数目標 》

- | | |
|-------------|-----------|
| [1] 預金年間平残 | 2兆846億円 |
| [2] 貸出金年間平残 | 1兆1,354億円 |
| [3] 業務純益 | 46億円 |

《 未来を変える3つの戦略 》

- ① 持続可能なビジネスモデルの確立
- ② ひがしんの働き方改革
- ③ マネジメント力の向上
～褒める文化の醸成～



本部



本店

東洋大学 × 浜野製作所 × 東京東信用金庫 特別対談 TOKYO イースト産学官金連携に期待すること ～人と人、相對することの重要性～

東京東信用金庫（以下、ひがしん）は、「夢を夢で終わらせない信用金庫」をスローガンに、産学官金連携による地域活性化推進事業に取り組んでいます。その意義や具体的な施策、そしてこれからの展望について3者で話し合いました。（写真左から 山本副センター長、矢口学長、浜野社長、中田理事長）【対談日：2022年6月29日】

対談された方々のプロフィール

東洋大学

矢口 悦子 学長

お茶の水女子大学文教育学部教育学科卒業、同大学院人間文化研究科（博士課程）単位取得退学。2003年に東洋大学文学部教授に就任し、社会貢献センター長、文学部長などを経て、2020年4月より第44代学長就任。

株式会社 浜野製作所

浜野 慶一 代表取締役 CEO

墨田区の町工場・浜野製作所の2代目社長。「お客様、スタッフ、地域への感謝・還元」を経営理念とし、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦、2018年には天皇陛下も視察に訪れた。

東京東信用金庫

中田 清史 理事長

東洋大学法学部卒業後、東武信用金庫（現在のひがしん）に入庫。2018年現職の東京東信用金庫理事長に就任。「夢を夢で終わらせない信用金庫」をスローガンに掲げ、産学官金連携・地域活性化推進事業に取り組む。

司会／東洋大学 産学官連携推進センター

山本 聡 副センター長

機械振興協会経済研究所、東京経済大学経営学部を経て、2019年4月より東洋大学経営学部教授（担当：中小企業経営論）、2020年4月より東洋大学大学院経営学研究科ビジネス会計ファイナンス専攻長。

協力関係から生まれる、「可能性」

山本副センター長：本日はよろしくお願いします。

ひがしんと東洋大学は、2016年に地域の産業振興に寄与することを目的とした産学連携に関する協定書を締結しました。その後の取り組みについて教えてください。

中田理事長：一つは、当金庫と東洋大学によって“TOKYO イースト”（城東地域）の未来を考えるシンポジウムを開催しています。このシンポジウムは、「DX（デジタルトランスフォーメーション）」や「SDGs」、「イノベーション」などのキーワードから、地域中小企業の新事業推進に役立つ情報を発信するものです。

また、競技用の国産カヌー「水走（MITSUHA）」の開発を目指すプロジェクトを推進しました。生物の機能や構造を生かすバイオミメティクス（生物模倣）や流体力学など東洋大学の研究成果を元に協力いただいたのが精密板金加工を手掛けている浜野製作所です。

浜野社長：日本を代表するカヌー選手たちも、海外から中古のカヌーを買って改良しているという実状があり、純国産カヌーの開発プロジェクトに参加しました。その際、ひがしんの取りまとめによって、東洋大学の方々と連携したことは貴重な経験になっています。

矢口学長：このプロジェクトは、本学の理念「他者のために自己を磨く。活動のなかで奮闘する」に合致するものといえます。“誰かのために役立つ学びや研究を追求し、現実社会の活動で前進する”ことを意味しますが、まさに大学の研究成果を、浜野製作所とともに実際にものづくりに活かすことができています。さらに、産学金連携によるシンポジウムによって、経営や経済の観点からも地域の課題に向き合うことができ、可能性の広がりを感じています。

山本副センター長：常に地域を重視する信用金庫として、地域に対する思いや具体的な施策について教えてください。

中田理事長：当金庫に限らず、地域貢献は信用金庫の使

命です。その使命から、コロナ禍では、墨田区の商店街連合会の皆さんにお弁当の販売ツールとしてキッチンカーを寄贈しました。手前どもの支店の駐車場を使ってもらい、そこでお弁当を販売してもらうとともに、当金庫の職員もそれを手伝っています。小さなことかもしれませんが、地域貢献は一つひとつの積み重ねであると考えています。

矢口学長：教育機関にとっても地域は大切な場です。学生たちは地域のボランティア活動へ参加するとともに、地域の企業でのインターンシップ（就業体験）によって、大学内では得られない貴重な体験をし、成長しています。その学生が、地域で活躍すれば、地域への還元になると考えています。



東洋大学とのシンポジウム



競技用の国産カヌー「水走（MITSUHA）」



墨田区商店街連合会にキッチンカーを寄贈

浜野社長：弊社もインターンの学生を受け入れています。が、“仕事を体験してもらう”というよりも、“やりたいことに挑戦してもらう”ようにしています。また、学生から私たちが教えてもらうことも多くあります。専門家、職人ゆえに、発想が凝り固まっている節があるため、学生の発想は目からウロコです。会社という場を活用してもらい、学生にはさまざまなことを経験してもらう、そんな場でありたいと思っています。

課題を解決するための、「人間力」

中田理事長：浜野さんの会社では、インターンの学生を受け入れるだけでなく、大企業の社員も出向しているようですね。

浜野社長：大手の自動車メーカーのエンジニアや電気メーカーの管理職の方々が出向に来られています。とても名誉なことですが、「なぜ、うちに出向を？」と聞くと、「人間力を磨くためです」と。実際にうちの会社で人間力が磨かれるのかは保証できませんが(笑)、弊社には多様な経歴をもった人間が集まり、部署や職種に関係なく、皆がお互いに協力し合う風土があります。



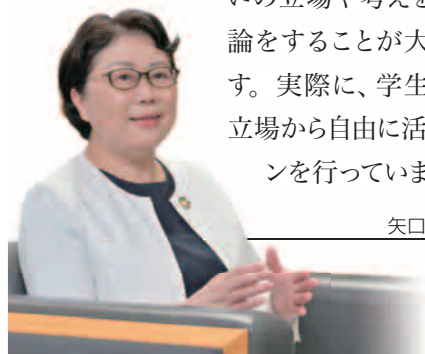
浜野 慶一 代表取締役 CEO

矢口学長：その風土が“人間力を磨く”ことにつながるのかもしれませんが。教育においても、人間力を磨くことは、永遠のテーマといえ、難しさがあります。それは、人間力を測る指標はなかなか決められないためです。

浜野社長：ものづくりでいえば、「高い人間力＝良い製品」につながるといえます。多様な人間のアイデアや意見、技術や納期などを調整しながら、製品化するからです。そのため、人間力は“調整力”という言葉に置き換えることができるかもしれません。自分とは異なる意見を受け入れ、価値観を認めながら、仕事を進めていく。そ

れによってお互いの本質的な理解につながり、新しい視点も生まれるのではないのでしょうか。

矢口学長：本学では、ウクライナから交換留学生を積極的に受け入れています。周りから「不安はありませんか？」と言われたことがあります。さまざまな意見を持つ人々がいるなかで、何かトラブルが発生する可能性に対する心配です。しかし、大学は、議論する場です。お互いの立場や考えを認め、その上で議論をすることが大切だと思っています。実際に、学生たちはそれぞれの立場から自由に活発なディスカッションを行っています。



矢口 悦子 学長

中田理事長：“Face to Face”による話し合いは重要です。コロナ禍によって、お客さまと実際に相対することが、本当の理解につながることを改めて実感しました。お客さまに相対しながら、どのような支援ができるのか、一緒に悩んで、解決へと向かう「伴走支援」をより強く進めたいと考えています。

垣根を超えた先にある、「未来」

山本副センター長：人と人が相対すること、お互いの価値観を認め合うことは、産学金連携においても重要といえます。

山本 聡 副センター長



矢口学長：さらに目的の明確化も大切です。コロナ禍によって本学もオンライン講義に切り替え、学生への情報などを一元化する「東洋大学公式アプリ」を独自に開

発しました。そのアプリには、学生が学内の落とし物を探せるサービスも加えました。実は大学では、教科書やノート、文房具、傘などの忘れ物がとても多く、年間で1万件以上に上り、それらの管理や本人確認などの作業は職員にとって大きな負担になっていました。今年4月に対面授業を再開したことで、忘れ物が激増しましたが、そのサービスによって、職員の負担は大きく軽減しました。その際、私は職員に尋ねました「軽減された時間をどう活用しますか?」と。

中田理事長：良いお話ですね。課題の解決や効率化を図った先に、何を見据えるかが大事だということですね。

中田 清史 理事長



矢口学長：はい。今回であれば、削減された時間を、忘れ物を取りに来た学生とのコミュニケーションの時間に充当できます。大学は人を育む場ですから、学生との交流やつながりを強くすることは大切なことです。効率化や合理化が目的ではなく、その先を見据え続けることが大切ではないでしょうか。

浜野社長：解決すべき課題は1つではなく、資金繰りや事業承継、または人間関係など、いくつも複雑にからみ合っています。そのなかで、企業と教育機関、金融機関が、共通の目的をもち、お互いに深く関わるのが大切

なのかもしれません。私も業種や地域、立場を超えて、さまざまな課題に、皆さんと協力しながら取り組んでいきたいと考えています。

中田理事長：そのために、金融機関も垣根を超えた支援が必要だと考えています。当金庫は、東信用組合、中ノ郷信用組合、第一勧業信用組合、そして墨田区と連携し、中小企業の経営課題の解決に向けて協議・協力する「HANDS」を結成しました。信用金庫と信用組合という業態を超えた仕組みによって、現在は事業承継の問題に取り組み、支援活動の高度化・効率化を目指しています。さらに、このようなネットワークを、都内にある信用金庫がそれぞれの地域で構築し、一体的に取り組むことができれば、東京全域における企業数減少の抑止や雇用の創出につながると考えています。

山本副センター長：ひがしん、浜野製作所、東洋大学、この3者は“ご近所”です。今回のようにすぐに相対することができる関係です。今後も良きご近所関係を続け、さまざまな課題と向き合っていければと思います。本日はありがとうございました。



企業支援ネットワーク「HANDS」の結成



SDGs ひがしんは地域の皆さまとともに未来へ 2030年の世界へ「ひがしんグループ SDGs 宣言」



ひがしんグループSDGsの取組みをご紹介します

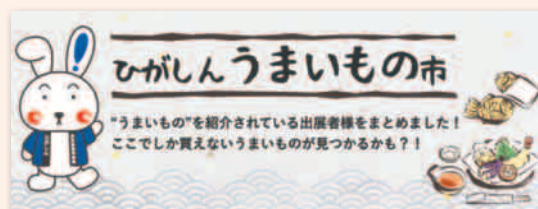


地域の経済発展

●ひがしんビジネスフェアを開催

地方創生への取組みとして、地域の産業を広く紹介し発展させるために「ひがしんビジネスフェア」を毎年開催しています。

例年、両国国技館で開催していた「ひがしんビジネスフェア」はコロナ禍の状況を踏まえ、2020年に初めてオンラインで開催し、2021年も引き続きオンラインで開催しました。



本業支援

● 墨田区と地域金融機関との連携 企業支援ネットワーク「HANDS (ハンズ)」を結成



墨田区内の中小・小規模事業者のさまざまな経営課題解決に向け、地元行政と地域金融機関が一体となって支援する取り組みを開始しました。HANDS は、当金庫（ひがしん）、東信用組合、中ノ郷信用組合、第一勧業信用組合、墨田区のそれぞれの頭文字をとって名づけられました。「信用金庫」や「信用組合」という業態の枠を超えて協力する仕組みを構築し、墨田区内の中小・小規模事業者の皆さまに対する支援活動の高度化・効率化を図ります。ぜひご相談ください。



SDGs
ひがしんは地域の皆さまとともに未来へ

課題解決セミナー

● 「令和3年度ひがしん創業塾」を オンライン開催

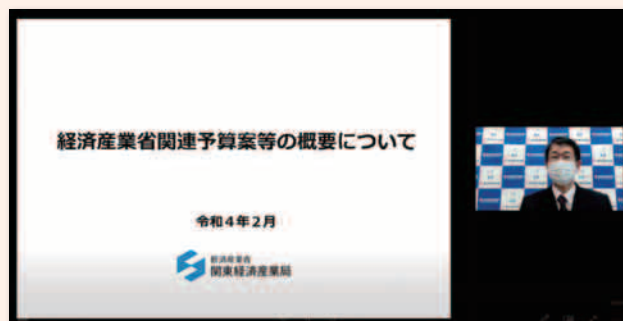
コロナ
対応



墨田区・足立区・江東区・江戸川区の「創業支援等事業計画」に基づき、創業希望者や創業間もない中小・小規模事業者の皆さまのために、創業に必要な知識をオンライン講義形式で解説いたしました。35 名の方に受講いただくことができました。

● 補助金・助成金説明会を オンラインで開催

コロナ
対応



事業者の皆さまにご活用いただける国や東京都・千葉県補助金・助成金を紹介いただくために、外部講師によるオンライン説明会を開催しました。

連携信用金庫との課題解決に向けた協働

●第6回ひがしん新現役交流会を開催

(共催：鹿沼相互信用金庫)



経営課題を抱える事業者さまの課題解決の手段として、“新現役”（大手企業OB等）とのマッチングを行う交流会を開催しました。

交流会から新製品の開発・発売に至った参加者もあり、“経営課題解決につながる”と好評です。交流会終了後もフォローアップを実施し、精度の高いマッチングを実現しております。

連携大学との協働

●「人材育成プログラム」へ参画



地域の中小・小規模事業者の皆さまが抱える、人材育成の課題解決のために、多摩大学と資格取得学校TAC（株）が主催する「次世代事業開発人材育成プログラム」に参画いたしました。参加事業者さまの若手社員とひがしんが一緒に新規事業を立案し、経営者へ提案しました。

新型コロナウイルス感染症への対応

●経営報告会オンラインを開催

コロナ
対応



例年会場開催としていた経営報告会を初めてオンライン形式で開催いたしました。

ひがしんの堅実な経営を皆さまにご認識いただくとともに、地域事業者の皆さまにひがしんの金融サービス、事業支援・SDGs活動を紹介させていただきました。

●東洋大学とDX・新事業推進 「オンライン・シンポジウム」を開催

コロナ
対応



「TOKYO イーストの“未来志向”と地域中小企業のDX・新事業推進」をテーマに、地域を代表する事業者さまと“デジタル改革”について議論しました。本シンポジウムには東京都から宮坂副知事と土村デジタルサービス推進部長にご登壇いただき、東京都によるDXの取組みについてお話しいただきました。

販路開拓支援

●キッチンカー「すみキチ号」による支援



墨田区と墨田区商店街連合会が連携して行っている「商店街 PR」事業において、区内飲食業支援を目的としてひがしんが寄贈したキッチンカーで、お弁当販売の機会創出を行いました。区内の飲食業の売り上げ向上・認知機会創出などあらゆる支援を継続して行っております。

●海外販路拡大等の支援



東南アジアのタイ王国の首都バンコクに設置している「ひがしんバンコクデスク」は、ひがしん唯一の海外拠点としてお取引先の海外展開支援を積極的に行っております。コロナ禍により、お客さまの代わりに現地の市場調査の実施や外部機関と連携したオンライン商談の実施などの支援を行っております。

地域社会・まちづくりへの貢献

自然災害の備え

●地域自治体との連携



災害時における帰宅困難者の受入・水害発生時の垂直避難協定の輪を広げ、葛飾区および足立区と協定を締結しました。地域にお住まいの皆さまと事業所の従業員の皆さまの安全・安心を確保するために、災害対策活動に協力いたします。

- ・帰宅困難者の受入れ協定：墨田区、江東区、江戸川区、葛飾区、足立区
- ・水害時垂直避難協定：墨田区

地域との絆づくり

●子育て支援チャリティコンサートの開催



地域の子育て支援団体を支援するために、新日本フィルハーモニー交響楽団と共にチャリティコンサートを開催しました。地域の文化芸術の粋である交響楽団の演奏に子育て支援団体関係者 200 名の方々に酔いしれていただきました。団体の皆さまには売上金の一部とクレヨンを寄贈いたしました。

(協力：ひがしんグループ)

●アートパラ深川おしゃべりな芸術祭を支援



障がいのある方々の芸術活動をサポートするために、「第2回アートパラ深川おしゃべりな芸術祭」の活動に協力いたしました。同芸術祭では、江東区の深川地区を中心に「障がいのある方のアート」作品を街なかや、ひがしの江東区内店舗に展示しました。訪れた方々に障がいのある方のアートに対する応援を呼びかけ、職員もボランティアなどで協力しております。

●「チャリティーあさがお市」を開催



恒例の「チャリティーあさがお市」を、事前予約制で2年ぶりに本店・吾郷支店・両国支店で開催いたしました。地域の皆さまと職員が一緒になって開催するイベントで、売上金の一部を墨田区社会福祉協議会に寄附いたしました。

●信用金庫初、警視庁と災害協定締結



荒川流域の大水害を見据えた、大規模災害発生時における「緊急避難」、「避難誘導」、「情報提供」に関して、警視庁と連携、協力をするという災害時協力協定を信用金庫としては初めて締結しました。



●フウガドールすみだを応援



平成 25 年 6 月から、墨田区をホームタウンとするフットサルチーム「フウガドールすみだ」のメインスポンサーを務めております。地元サッカークラブの親子を招待し、「ひがしんDay」を開催しました。チームの応援を通じて地域の皆さまの夢と希望を応援し、活気あるまちづくりを目指します。

人材育成

地域の未来を担う人材育成

●新入職員歓迎コンサート



ひがしんにとって「職員一人ひとり」が大切な存在です。
ひがしんの成長は、職員一人ひとりの総和であり、
未来を担う職員をしっかりと育成してまいります。



●中田理事長が客員教授として講義



連携協定を締結している青森大学の学生に向けて、中田理事長が客員教授としてオンライン講義を行いました。総合経営学部の学生に対して本業支援の取組事例を紹介するとともに、事業者さまにもご登壇いただき、“自身のビジネスの考え方”や“ひがしんとの連携事業”などについて語っていただきました。

働きがいのある職場づくり

●健康経営を実践し 6 年連続認定



経済産業省主導の健康経営優良法人（大規模法人部門）に信用金庫業界で初めて認定を受け、平成 29 年 2 月から 6 年連続で認定を受けております。

役職員の健康保持・増進の取組みが、ひがしんの生産性を高めることにつながるため、健康経営を戦略的に実践しております。

女性活躍と子育て支援

●仕事と育児の両立支援・女性活躍推進を応援



より高い水準の仕事と子育ての両立をサポートする企業として、令和 2 年 12 月に「プラチナくるみん」の認定を受けました。また、令和 3 年 12 月に女性活躍推進に関する取り組み状況が優良である企業として「えるぼし」の認定を受けました。職員の働きやすい環境づくりを促進し、地域の皆さまへ質の高い金融サービスを提供いたします。

地域環境への取組み

環境負荷低減に向けた取組み

●ESG 投資

「グリーン」「ソーシャル」「サステナビリティ」各ボンドへの投資を通じて、環境・社会の問題解決につながる事業などを支援しております。「ESG 投資実績のお知らせ」としてホームページにおいて投資実績を公表しております。

Environment	環境
Social	社会
Governance	企業統治

●会議資料のペーパーレス化

経営会議などで印刷していた資料を撤廃し、電子データを用いた会議進行を励行しております。全役職員で、紙資源および廃棄物の削減を意識した活動を進めております。



ひがしんの「4つの組織」



発足 平成 4 年 7 月

66 支部

会員数 1,598 名

令和 4 年 3 月末現在



会長 浜野 慶一

ひがしんビジネスクラブ オーロラ

～経営者の会として多彩な行事を展開～

お取引先企業経営者を会員として構成されており、経営勉強会や講演会、異業種交流会や懇親会などを通して、経営情報の収集や人脈形成等を図り、地域の経済発展に寄与することを目的として活動しております。



第 29 回会員大会「オンラインセミナー」



ひがしん WEB セミナー



発足 平成 20 年 12 月

会員数 243 名

令和 4 年 3 月末現在



会長 竹内 豪

ひがしん若手経営者の会 ラパン

～次世代を担う若手経営者の会～

次世代の企業経営を担う 45 歳以下の若手経営者・後継者を加入資格とした組織で、経営者相互の交流と、経済・経営に関する啓発、情報交換を通じて、新しい経営のあり方を学ぶとともに会員企業相互のビジネスマッチング、問題解決の場を提供することを目的として活動しております。



第 12 回会員大会「オンラインセミナー」



発足 平成 20 年 9 月

会員数 423 名

令和 4 年 3 月末現在



会長 岡本 恵子

ひがしんレディースクラブ レインボー

～女性の輝く未来を応援～

女性のお客さまを対象とした組織で、文化・教養・趣味などのイベントや旅行、各種見学会、スポーツ競技会などを通じて、会員の個性を発揮し、創造性を高め、会員相互の交流と親睦を図ることを目的として活動しております。



書画教室
両国本部 10 階大ホール



書画教室
本八幡支店 会議室



発足 平成 7 年 4 月

会員数 76,022 名

令和 4 年 3 月末現在



会長 田邊 正樹

ひがしんわいわい倶楽部

～年金受給者の健康で豊かな暮らしを願って～

年金をお受取りになられているお客さまが、健康で豊かな楽しい暮らしを続けてくださることを願い誕生しました。全営業店から多くの会員の皆さまが参加する恒例の一泊旅行「ひがしん わいわいツアー」や観劇会の企画、健康介護相談付き団体傷害保険、交通事故見舞金制度の運営など、会員の皆さまのお役に立つよう多彩な活動を行い、倶楽部の輪を広めております。



第 22 回 明治座観劇会



ひがしんの概要

【設 立】昭和20年12月15日
【出 資 金】243億円
【預金積金】2兆1,145億円
【貸 出 金】1兆1,375億円
【職 員 数】1,348名
【店 舗 数】66店舗8出張所
店舗外ATM コーナー 20カ所
(令和4年3月末現在)

ひがしんを知っていただくガイドブック2022



東京東信用金庫

<https://www.higashin.co.jp>

本部：東京都墨田区両国 4-35-9
Tel.03-5610-1111 (代)

本店：東京都墨田区東向島 2-36-10
Tel.03-3611-0131 (代)

表紙画像について

牛嶋神社はかつては「うしのごぜん社」とも呼ばれ、須佐之男命を郷土守護神としてお祀りし、貞観二年(860年)、慈覚大師の御神託により創建されました。

その後、天之穂日命、清和天皇の第七皇子貞辰親王命が祀られ、御祭神は、この三柱の神々になっています。また、源頼朝、北条氏直などの武将とも所縁があり、江戸時代には将軍家の崇敬も厚く受けていました。

境内の「撫牛」は自分の悪い部分と牛の同じ部分を撫でると病が治るという信仰で、肉体だけでなく心も治るという心身回癒で有名。

葛飾北斎「新板浮絵三囲牛御前両社之図」
画像提供：すみだ北斎美術館



再生紙および
植物油インキを
使用しております